

■学校経営のポイント

広報戦略としての学校便り巻頭言と講話

小島 宏

校長の学校便り巻頭言や講話、挨拶などは、学校への理解者・支援者づくりと考え、学校の広報戦略の一環であると認識することが大切である。

そこで、目的を「情報公開」「子供への指導」「保護者や地域への啓発」「PR」「学校支援者への感謝」と捉え、年間計画の下に進めることが肝要である。

学校便り巻頭言・各種講話のポイント

学校の広報戦略の一環である巻頭言や講話は、明確な意図の下に行われる必要がある。

そこで、「1年間の見通しを立てる」「ねらいの明確化」「対象に合った内容」「情報の収集」「事実とデータの活用」「十分に構想を練る」「正しい日本語を遣って正確・適切な表現」「語りかけるような表現」「ですます調で丁寧な表現」「事前に教職員の意見を聞いて必要なら調整」「保護者や地域住民への感謝の念を織り込む」などがポイントとなる。その際、文字伝達と音声伝達の違いを考慮する必要がある。

巻頭言・講話を効果的にする隠し味

巻頭言や講話などには、目的と対象がそれぞれ異なるが、私の経験から次の項目を隠し味として、盛り込むと効果的である。

- 子供の未来づくりへの手助け ○子供への愛情
- 教職員への感謝 ○先輩・上司への尊敬
- 保護者・地域への謙虚・寛容
- 明るく・元気・前向きな内容や表現
- 肯定的評価 ○完璧よりその時の最善
- 過程は大事だが最後は結果「子供の姿」である。

ハウレンソウ・大根・小豆

巻頭言や講話を広報戦略とするために、対象を意識した内容や表現、時期などに留意することである。

そこで、「学校の考え・方針・計画や課題・対応の報告」「ものごとの推移や関心事への連絡」「学校公

開時の意見や感想」「アンケートによる願いや意見等の調査(相談)」などを丁寧に行うことが肝要である。

その上で、難しいことや新しいことについては、熟考した上で、大根(大胆に、そして少しくらいの困難や失敗にはめげず根気よく進める)、そして、何よりも大切にしたいことは、理解者や支援者を増やすために、小豆(こまめに関わり続け根回しをする)を励行することである。

戒め 10 箇条

学校便り巻頭言や講話に接して、後味の悪い感じを持つことが時としてある。その原因を探って整理してみる。以下、10個のタブーを紹介する。

- 第一、校長の自慢話はしない。校長の人柄と力は、桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す。
- 第二、感謝の意を表したいあまり個人名を挙げ特定の人へのへつらいととられない。
- 第三、自説の主張は必要であるが、中立・公正・公平のブレに留意する。
- 第四、協力・連携は重要であるが、保護者や地域だけに求めすぎない。
- 第五、善意や正義を振りかざし、一方的に押し付けないことである。
- 第六、関係者を短絡的に責めない。
- 第七、長すぎる時候の挨拶や行事の由来・解説は、無用である。
- 第八、長すぎる他人の作品や文章の引用は、関心を低下させ、軽薄に映ることがある。
- 第九、格調の高すぎる文章、難解な漢字や用語・語句は、内容の理解につながりにくい。
- 第十、学校や児童・生徒の大げさすぎる美談や結果の報告(針小棒大の粉飾)は逆効果である。
(こじま・ひろし=一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●校長のメッセージが築く学校と家庭・地域の信頼関係

『「学校だより巻頭言」12ヵ月 113 文例』

【編集】露木昌仙(元全国連合小学校長会長) A5判・192頁／定価(本体 2,200円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料 FAX 0120-462-488 をご利用ください(24時間受付・即日発送)